

えびの高原池めぐりコース（白鳥山を含む）

趣 旨 三つの火口湖（不動池、六観音御池、白紫池）と周辺の自然の観察を通して、自然と人間とのかかわりを大切にしている心情を培い、自然に対する畏敬の念を育てる機会とする。

日程例

09：00	霧島自然ふれあいセンター発	
09：30	えびの高原駐車場着	※ 荒天時は、えびのエコミュージアムセンター
09：40	えびの高原駐車場発	やビジターセンター等の近隣施設の見学も可能
10：20	二湖パノラマ展望台	です。
10：45	白鳥山山頂	
11：10	白鳥山北展望台	
11：50	六観音御池展望台	（昼食）
12：40	不動池	
13：10	六観音御池	
13：35	白紫池	
14：05	えびの高原駐車場着	
14：15	えびの高原駐車場発	
14：45	霧島自然ふれあいセンター着	

※ 令和5年4月1日現在、県道1号線通行止めのため、不動池からえびのエコミュージアムセンターは立入禁止です。

連 絡 荒天時の態度決定、登山開始時及び終了時、緊急事態発生時に連絡

危険箇所 白鳥山山頂付近の落石。北展望台から白鳥山北登山口までの下山道。

無線交信可能地点

白鳥山頂上だけで、ルート上にはない。

- 留意事項**
- (1) 引率指導者の指示を守る。
 - (2) 常に班で行動し、単独行動をしない。
 - (3) 体力に応じたペースで歩行し、適宜休憩をとる。
 - (4) 危険区域及び火口壁に近づかない。
 - (5) 落石には、特に注意する。
 - (6) 緊急事態が発生したら、直ちに近くの引率指導者に連絡する。
 - (7) 自然を大切にする。
 - (8) ゴミはすべて持ち帰る。

季節による見所等

<眺望、観察ポイント>

- ・ 六観音御池付近の巨大杉と展望所からの眺望
- ・ えびの高原駐車場からえびの高原、白紫池までの中間地点のアカマツ林、ミヤコザサ
- ・ シカの生息を示す痕跡、アカマツ林の背の低いミヤコザサ、剪定したようなイヌツゲ、枝の折れたノリウツギ、リョウブ、ヤマウルシの木の皮のはがれた部分

春：白紫池に映える新緑、動物の食事跡やフン、花（ナナカマド・ヤブツバキ・シロモジ・ヤマヤナキ・タチツボスミレ・アケビ・ムベ・ハルリンドウ・ヤマザクラ・キリシマミズキ・カナクキノキ等）、野鳥（エナガ・ゴジュウカラ・ヤマガラ・ウグイス・アオゲラ等）

夏：動物の食事跡やフン、木陰での清涼感、樹木や土の匂い、花（ナツツバキ・リョウブ・コバノクロツル・ノリウツギ等）、野鳥（ホトトギス・カツコウ等）

秋：紅葉（ナナカマド・コミネカエデ・ウリハダカエデ・オオモミジ・コハウチワカエデ等）、シカの鳴き声、六観音御池に映える紅葉、動物の食事跡やフン

冬：雪に残された動物の足跡、動物の食事跡やフン、白紫池の氷結、野鳥（キンクロハジロ・マガモ・コガモ・カルガモ等）

歴史等 白紫池の北西に位置する白鳥山は、約10万年前の火山活動でできた山ですが、その火口は白紫池の火山噴出物により埋もれてしまったそうです。その他の2つの池も同じく火口の跡で、不動池の近くには不動池の火口から吹き出したマグマの跡である溶岩堤防も見られます。

白鳥山の由来は、ヤマトタケルが白鳥に姿を変え、この地に住んだという伝説から。また、六観音御池は、平安時代に性空上人が、湖の畔に六体の観音像を安置したことによります。

えびの高原池めぐりコース（白鳥山を含む）



白鳥山山頂



白鳥山北展望台



六観音御池展望台



二湖パノラマ展望台



えびの展望台



えびのエコミュージアムセンター